

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ソウカダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) マスイゼミ
創価大学	経済学部	増井ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) ミートレポリューションチーム	フリガナ) イシイサトウ	8	無し
MR チーム	石井里和		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)

パワーポイント

研究テーマ (発表タイトル)

大学生食生活改善プロジェクト

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

本研究の目的は、大学生が食生活の重要性を認識し、実際に健康的な食生活を送ることができるようにすることである。

食事は人の体を作っていく大切な要素であり、偏った食生活を続けることで生活習慣病のリスクの上昇や集中力の低下が引き起こされる。しかし、食生活の重要性について考える機会が多くあるとは言い難い。特に大学生は、親元を離れ一人暮らしを始めることをきっかけに食生活を自己管理しなくてはならなくなることから、健康的な食生活を習慣付けるための大切な期間であると考え、私たちは大学生を対象とした食生活改善プロジェクトを行う。そこで、大学生に向けた食事のホームページを作成、SNS や、イベント等を催しそれを拡散することにより食生活に対する意識改善を促し、学食のテイクアウトを実現することで良い食生活を送ることが出来る環境の提供を目指す。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

コンビニ店舗数の増加や、インターネットの普及により、より簡単に食事を手に入れることができるようになってきている。しかし、そのような社会の中でも食生活について考えることは重要である。国立循環器病研究センター (JPHC 研究) によると、厚生労働省の策定する食事バランスガイドを順守すると循環器疾患死亡、総死亡のリスクが低下する。循環器疾患とは、日本人の死因

のうち第 2 位の心疾患と、第 4 位脳血管疾患を含み、それらを合わせると、全体の 25.5%が循環器疾患によって亡くなっていることが分かる。また、死因の第 1 位であるガンについてもその約 30%が成人期の食生活や肥満の改善により、予防が可能であることがハーバード大学ガン予防センターの研究により分かっている。このように、食生活は、私たちの健康に対して非常に深いかわりがある。

その一方で、偏った食生活を送っている人は 20 代に多く存在する。農林水産省（東京農政事務所）の調べによると、食生活について普段の食事に気を付けようと思っている、かつ、気を付けた食事をとれている人の割合は男性 61%、女性 73%であるのに対し、20 代では、男性 29%、女性 55%となっている。また、厚生労働省（2016）によると、朝食の欠食率は全体の平均が男性 15.4%、女性 10.7%であるのに対し、20 代は男性 37.4%、女性 23.1%となっている。これらの事実から、20 代は食生活が良いとは言えない状況であり、その重要性を認識するべきであると考えた。さらに、私たちは 20 代の中でも、ターゲットを「大学生」に絞った。その理由は次のとおりである。

- ① 20 代が大学進学や就職をきっかけにひとり暮らしを始める人が多く、生活の転換期であるとともに、食生活の主体者となる年代である。
- ② 就職をきっかけに食生活に主体的に向き合うようになる人は多いが、大学卒業後ではなく、早い段階で対策を考えるべきである。
- ③ 社会人に比べて大学生は金銭面で余裕がないため、食生活について興味があったとしても実際の行動に移す人は少ない可能性が高い。

以上の 3 点の理由から、本研究のターゲットを大学生とした。

3. 研究テーマの課題

研究テーマの課題は、以下の 2 点である。

- ① 大学生が食生活の重要性について正しく認識できていないこと
- ② 健康的な食生活を送るための十分な環境が整っていないこと

これらの原因として、進学や就職により生活習慣が変わりやすい段階において食生活の重要性を啓発する団体が少ないこと、インターネットやアプリケーションを使うことで、良い食生活を送ることができる環境はあるが、実行に移そうとするまでの食生活に対する認識ができていないことが考えられる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

「大学生が食生活の重要性について正しく認識できていないこと」や「良い食生活を送るための十分な環境が整っていないこと」といった課題を解決するために、ホームページを作成し、実際にその環境を簡単に提供できる機会を創出した。具体的な施策については、注意・関心・欲求・行動という消費者の購買に至るまでの決定プロセス（AIDA の法則）を参考に施策を展開する。食生活の改善のためには大学生自身の意識改革が必要である。このホームページを通して意識改革を啓発し、行動に移すための第一歩としたい。また、実際の行動に移しやすくするため、学食のテイクアウトについて交渉している。さらに、学食のテイクアウトについては、私たちの大学をモデルケースとして、他大学にも広めていきたい。

「注意」： ホームページ閲覧のため動画を作成、SNS での拡散を行っている。

「関心」： 悪い食生活を続けることによっておこる悪影響や理想の食生活についての掲載したホームページを作成した。

「欲求」： 大学祭などで食生活の大切さについてアピールするイベントを開催している。

「行動」： 大学生が安定した食生活を得るための機会を提供するために、現在交渉中であるが学食のテイクアウトを考えている。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

具体的な活動内容は、①大学生を対象とした独自のアンケート調査による食生活の現状の把握 ②専門家へのヒアリング調査によって、理想の食生活や食生活の与える影響の調査 ③食生活の重要性を伝えるホームページの作成 ④学食のテイクアウトの実施 の 4 点である。①により、今の食生活で十分に栄養がとれていると感じている学生は 18.6%しかおらず、多くの学生が栄養の取れた食生活を送ることができていないことが分かった。②については、本田優子氏（本大学看護学部教授）と中

江大氏（東京農業大学教授）、煙山紀子氏（東京農業大学准教授）にヒアリング調査を実施した。理想の食生活は、大前提として 3 食食べることで、長期的なタームで自身の食について把握し栄養バランスの整った食事をとることである。食生活の乱れによる影響については、短期的には集中力の低下や疲れやすくなる、ストレスを感じやすくなる等といった影響があり、長期的には、生活習慣病をはじめとする病気の原因となり得るということが分かった。③については、①で行ったアンケート調査をもとにした大学生の食生活の現状や、大学生に分かりやすく食生活の大切さを伝えるべく②で得た知識をまとめ、掲載した。④の学食のテイクアウトについては、現在は交渉中である。学食は比較的安価で栄養バランスの良い食事をとることができ、自炊の手間も省くことができるため、アルバイトやサークル等の諸活動で忙しい学生にとって、良い食生活を送ることができる環境になると考えた。

〈アンケート調査〉

1. 八王子市に住む学生へのアンケート（2017/7/26~2017/7/30）対象：大学生 回答数：237
2. 学生の食生活に関するアンケート（2017/8/9~）対象：大学生 回答数：213
3. ホームページ閲覧者に対するアンケート 対象：大学生 回答数：52

〈SNS 広告〉

- Twitter
- Facebook

〈ホームページ〉

- ホームページの概要紹介動画・・・食生活が良い場合と悪い場合の影響を分かりやすくまとめた動画の作成
- 現状・・・一人暮らしの大学生が十分な影響を取れているかのアンケート
自炊の頻度についてのアンケート
偏った食生活による体への影響
- 理想の食生活・・・“五大栄養素を基調とし、一日に 30 品目程度を取る”
- 私たちの取り組み・・・イベントの開催・動画の拡散・学食のテイクアウト
- リンク・・・自炊をするときに役立つリンクの掲載
(クックパッド・全国大学生生活協同組合連合会「自炊のすすめ」など)

〈専門家へのヒアリング調査〉

- 創価大学 教授 本田優子氏
- 東京農業大学 教授 中江大氏
- 東京農業大学 准教授 煙山紀子氏
- 人間総合科学大学 准教授 梅國智子氏

6. 結果や今後の取り組み

現在ホームページの閲覧数が 50 人を超えており、10 月中に 1000 人の突破を目指す。また、血圧が高く悩んでいた被験者が、実際に食生活を見直してみたところ、血圧が 134mmHg から 120mmHg に下がった。このことにより、実際に、食生活を見直すことで健康につながる事が分かった。

今後の取り組みとして次の三点があげられる。①ホームページの閲覧数増加のため、SNS を用いた広告活動を継続して行うこと②食生活改善のためのイベントを定期的で開催すること③他大学でも、私たちの施策について賛同していただき、実際に学食のテイクアウトを取り入れていただくことである。①の広告活動では現在行っている Twitter、Facebook での拡散を継続して行い、随時新しい情報を追加していく。②の食生活改善のためのイベントとしては月に 2 回学校のフリースペースにて食生活の大切さを伝えるプレゼンを行い、また来たいと思ってもらえるように毎回到新しい情報を発信していく。③の他大学の賛同では現時点でテイクアウトを実施している大学が少ないことから、学食のテイクアウトを行うメリットや予算など導入するまでの流れをまとめ、他大

学とのアポイントを取り、学食のテイクアウトのサービスを広めていきたいと考えている。これらの取り組みにより、全国の大学生の食生活を少しでも改善させていきたい。

7. 参考文献

・ Japan Public Health Center based Prospective Study Group (2016) 「Quality of diet and mortality among Japanese men and women」

<http://www.bmj.com/content/352/bmj.i1209> (閲覧日:2016年9月25日)

・ 厚生労働省 (2016) 「平成28年国民健康・栄養調査結果の概要」

http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/kekkgaiyou_5.pdf (閲覧日:2016年9月25日)

・ 厚生労働省 (2016) 「平成28年人口動態統計」 (閲覧日:2016年9月25日)

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/suikei16/dl/2016suikei.pdf>

・ 農林水産省 (2010) 「食生活に関するアンケート結果の概要」 (閲覧日:2016年9月25日)

<http://www.maff.go.jp/kanto/press/tokyo/pdf/100310-01.pdf> (閲覧日:2016年9月25日)

・ ハーバード大学ガン予防センター (1996) 「Harvard Report on Cancer Prevention」

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経BPマーケティング社様に作製していただく大会結果HPに本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを4ページ以内におさめて、提出してください